

# 津波避難訓練の参加者数の推移は

## 参加者数は増加している

**議員** 東日本大震災から15年目を迎える。津波避難訓練の参加者数の推移は。

**市長** 令和5年度以降の訓練において、参加者数は増加している。地域コミュニティや自主防災組織による積極的な呼びかけ、学校や企業との連携訓練の拡充など防災活動に関わる体制が着実に整ってきている。さらに震災の経験を次世代に伝える取組や、日頃からの防災教育の充実が進み、市民一人ひとりが「自らの命を守る行動」をより現実的に捉え、訓練への参加意欲が高まっているものと認識している。

**議員** 小中学校における防災教育は現在どのような内容で、どのように実施されているか。

**教育長** 「釜石市津波防災教育の手引き」を作成し、令和6年度から同手引きを活用した防災教育を行っている。地震津波災害だけでなく、洪水災害や土砂災害に関する知識の習得や、災害発生時の行動や平時の備えなどを、発達段階に応じて学習を積み重ねていく内容となっている。さらに授業参観日に防災や命の大切さをテーマに授業を行うなど各学校では、内容や実施方法を工夫しながら、防災教育を行っている。

**議員** 釜石市内の小中学校の学校給食でストローレスを導入することで、環境問題を考えるきっかけにもつながる。当市でも導入を検討されてはどうか。

### 学校給食

**給食センター所長** 当市では前年度約34万本のストローが使用された。ストローレスにすると二酸化炭素約0.5tの削減が見込まれる。日本全国で急速にスト

ローレスは広まっており、当市でも自主的にストローを使用していない学校もある。今後も学校側と連携しながら環境に配慮した取組を進めていく。

**議員** 学校給食での種類の提供が年1回から月1回になり子どもたちも喜んでいいる。さらに子どもたちの

声を聞くため、リクエスト給食のアンケートを児童生徒全員から集めてはどうか。

**給食センター所長** 絆議会でも子どもたちからも要望があった。新年度はリクエスト給食のみではなく、他にどのような方法があるか検討しながら子どもたちの声を給食に反映したい。

さらに震災の経験を次世代に伝える取組や、日頃からの防災教育の充実が進み、市民一人ひとりが「自らの命を守る行動」をより現実的に捉え、訓練への参加意欲が高まっているものと認識している。

**議員** 小中学校における防災教育は現在どのような内容で、どのように実施されているか。

**給食センター所長** 当市では前年度約34万本のストローが使用された。ストローレスにすると二酸化炭素約0.5tの削減が見込まれる。日本全国で急速にスト



津波避難場所となる薬師公園（入口）



井筒健太郎  
(創政会)



議員のこちら  
井筒の動画

### 質問項目

- ・ 防災行政について
- ・ 学校給食について

ストローレス：プラスチックゴミ削減と環境保全を目的に、飲料容器からストローを廃止し、直接口をつけて飲む方式や、専用の飲み口付き容器へ切り替える取組。